

H25.5.11

被害や嫉妬の言動



長尾和宏(ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。医学博士。近著「平穀死・10の条件」「胃ろう」という選択、しない選択はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。54歳。

不思議なものです。高齢女性が認知症になると「嫁が財布を取った!」と必ず言います。こうした「もの取られ妄想」に代表される被害妄想は、それだけで認知症だと分かるくらいです。嫁はそんな姑を「あなた、あんなお母さん早く施設に入れて!」と泣き叫び、夫は戸惑います。町医者をしていると、その仲介に入ることが時々あります。施設では、熱心な介護職

もの取られ妄想への対応

妄想の裏には「介護されていける自分を否定したい」気持ちがあるのです。
妄想とは「関係性を逆転しようとする試み」です。「関係性の反撃」とも言います。介護する人が妻であった場合、嫉妬妄想となります。閉鎖的な空間で妻が献身的に介護している場合に、そのような言葉が出やすいのです。被害や嫉妬妄想への対処法を考えてみましょう。「勘違

大切です。たとえば、カラオケや将棋の先生になつてももらうのです。「自分も他人のお世話をしている。対等な人間関係の中で生活している」と実感できれば、妄想は一挙に軽減します。
大切なものの保管場所を決めて、目立つ名札を貼つておいて、いつかで好転します。言われたという言葉に対してもすぐに否定してもまったく意味ありません。「本当にないか、

員ほど泥棒にされます。しかし男性認知症でそんなことを言つた人は見たことがあります。認知症の男性は「妻が俺に見えないところで浮気をしている」などと言います。これは嫉妬妄想です。実は被害妄想も嫉妬妄想も、認知症の根幹にかかわる言動です。私たちはそうした

「世話になっている」という態度で上げる引き金になつていま
た。このよつた場合、高齢者から何かを教わるという態度が
「否認」ではなく、「共
感」する態度が最も大切なことです。本人の主体性を重く扱
う。自信を回復させることができます。
介護を一人で抱え込まず、
デイサービスやデイケアなどを上手に利用することも大切です。在宅介護では「抱え込み」が時々見られます。人間関係を決して閉鎖的にせず、

「あれ? 何か違うかな?」と思つてはいけません。しかし、本人は妄想自体を忘れてしまい、根に持つてはいけません。心の奥底で

Dr.

和の町医者口伝

「認知症ケア」シリーズ⑧

妄想をどう考え、どう対応すればいいのでしょうか?
まず「もの取られ妄想」に意味する。昼間に日帰りで利用する。通所介護の場合、社会的な交流や家族負担の軽減が主な目的。通所リハは、身体機能や日常生活の維持、回復が主になります。

①近い記憶が失われて、最も身近な人を犯人と思い込む。
②年下の家族の世話になるという屈辱不安、反発。
③周囲が認知症の人が置かれている状況を理解しないまま対応するとの間違い。

「世話になっている」という態度で上げる引き金になつていま
た。このよつた場合、高齢者から何かを教わるという態度が
「否認」ではなく、「共
感」する態度が最も大切なことです。本人の主体性を重く扱
う。自信を回復させることができます。
介護を一人で抱え込まず、
デイサービスやデイケアなどを上手に利用することも大切です。在宅介護では「抱え込み」が時々見られます。人間関係を決して閉鎖的にせず、



デイサービス、デイケア デイサービス=通所介護、デイケア=通所リハビリテーションを

ひようご